

第10回 物部川水系流域治水協議会 議 事 概 要（質疑概要）

日時：令和6年7月30日（火） 10:00～11:30

場所：香南市中央公民館（のいちふれあいセンター）2F 第1・2研修室（WEB 併用）

議事1：規約の改定について

- ・意見等無し

議事2：各機関の取組紹介（高知市、南国市、香南市、香美市）

- ・意見等無し

議事3：気候変動を踏まえた流域治水プロジェクトの検討について

（流域治水プロジェクトの進捗状況（河川対策））

- ・意見等無し

（気候変動を踏まえた対策の検討）

○物部川流域学識者会議、物部川清流保全推進協議会

- ・気候変動後のダムカット量 1,600m³/s を想定した根拠を教えてください。

○事務局

- ・気候変動を踏まえた河川整備を実施するにあたり、現実的なダム改造案によるカット量を想定した。

○物部川流域学識者会議、物部川清流保全推進協議会

- ・遊水地を位置づけることにより、優良な田畑への影響が想定されるが、遊水地を位置づけることに関する感触を教えてください。

○香美市

- ・香美市ではビニールハウスを守りたいと考えている。今後、遊水地が必要となる場合は、検討したい。

○香南市

- ・遊水地は有効と考えている。野市町などでは宅地化が進行しており、水害が発生している。下井川の整備を高知県と進めているが整備には時間を要する。香南市内において遊水地または雨水を貯留する施設が必要であると考えている。

○南国市

- ・遊水地は考えていない。

○南国市

- ・気候変動に対応した計画の見直しには時間を要すると考えられるので、現行の計画に基

づいた整備を着実に実施してほしい。南国市の対策として、河川沿いの地域では安全に逃げる対策として、氾濫による被害の危険性がある地域ということを引き続き住民に周知するとともに、地域の避難計画などの整備に取り組んでいきたい。

○香南市

- ・香南市では園芸農業が盛んであり、地下水を利用している。しかし、宅地化の進行により、地下水への影響を懸念している。雨水浸透槽や、雨水貯留施設を考えているが、技術的、予算的な課題がある。国交省には知恵を借りたい。
- ・海岸の砂浜が減少している。香南市において、吉川漁港の浚渫土砂を養浜材へ活用するなどの対策を実施しているが、ダム等の掘削土を養浜材として活用することも検討して頂きたい。

○香美市

- ・気候変動に対応する治水対策として、物部川上流のダムを改造する必要があると考えているため、河川整備基本方針、河川整備計画を早期に変更してほしい。流プロ 2.0 としても、既存ダムの有効活用としてダム改造、流水型ダムという文言が盛り込まれるとよい。
- ・大栃公園が浸水するため、永瀬ダムの水位を上げられないことが課題と認識している。永瀬ダム浚渫土を有効活用して、大栃公園を嵩上げすることを関係機関と連携して検討したい。
- ・山の整備についても課題と認識している。濁水問題にも関係するため、森林関係の制度を活用しながら、対策を進めるとともに、山に関する技術者を増やすということにも取り組んでいきたい。
- ・MIZBE ステーションの整備も進めたい。

○高知市

- ・高知市の東部は物部川の浸水想定範囲内となっているため、洪水調節施設の増強や堤防強化等を着実に実施してほしい。

○高知県

- ・大栃公園を嵩上げする対策については、治水容量に関連するため、全体のバランスを踏まえて検討していきたい。

議事 4：その他

○物部川濁水対策検討会

- ・洪水対策も重要だが、濁水の点を懸念している。ハード整備も重要であるが、流域治水というのはパラダイムシフトである。川の恵みを持続的に味わいながらリスクを抑える方法を考えていかなければならない。

○物部川流域学識者会議、物部川清流保全推進協議会

- ・河川整備基本方針を変更することには時間がかかる。ダムの再編や改造に関してはさらに時間がかかる。その間、流域関係者の治水についての熱意を保つことが必要と感じている。

○高知河川国道事務所

- ・次回流域治水協議会では、本日いただいた意見を踏まえ、流域全体で協力して洪水を防ぐ、バランスの取れた流域治水プロジェクト変更案を作成し、意見をいただく予定である。

－以上－